# 人を苅田を地球を想う
## ～今こそ行動SDGs～

### 白石海岸清掃活動とSDGsシンポジウムを開催！

SDGsについて町民の皆さんに広く知っていただくため、10月28・29日の2日間にわたり、「白石海岸清掃活動」と「SDGｓシンポジウム」を開催しました。

2030年までに持続可能なよりよい世界を目指す国際目標・SDGs。2015年に国連サミットで採択され、世界中で取り組みが進んでいます。

苅田町でも令和3年6月、「苅田町SDGs推進方針」を策定し、町の特色を踏まえたSDGsの推進に取り組んできました。

そして今回、SDGs推進の取り組みとして、白石海岸清掃活動とSDGsシンポジウムを開催。持続可能な社会の実現に向け、新たな一歩を踏み出しました。

▲参加者と気さくに話をしながら、手際よくごみを集める野口さん。

10/28
白石海岸
清掃

### 町で唯一の自然海岸を美しく！
### アルピニストの野口健さんと白石海岸の清掃活動を実施

苅田町は、臨海部の港湾整備と臨海工業地帯の大規模な造成によって発展してきました。このような中で、町に唯一残っている自然の海岸が「白石海岸」です。

白石海岸では、2月末から6月頃に潮干狩り（マテ貝）を楽しむことができ、毎年大勢の人が訪れますが、漂流ごみが頻繁に流れ着くなど、景観や安全を維持するうえでの課題もあります。

そこで苅田町では、その豊かな自然環境を守り、誰もが安心して利用できる海岸にするため、10月28日に海岸一帯の清掃活動を行いました。

当日は、アルピニストの野口健さんや企業・団体の皆さん、一般参加の方の総勢約250名で清掃活動を実施。1時間半という短い時間で、およそ2トンのごみを集めました。

野口さんは「ごみ拾いは環境に対する関心を持ついいきっかけになります。ごみを拾いながら、どうしてごみが流れてくるのか、自分はちゃんと分別できているか、ということを考えてほしいですね」と話しました。

参加者は「ごみがどこから流れ着いて、どんなことに使われていたのか、子どもと話しながら拾うことができて、とてもいい経験になりました」と話していました。

10/29
SDGs
シンポジウム

▲300人を超える人が、野口さんの講演に熱心に耳を傾けました。

## 環境問題で大切なことは、人と人とのつながり

白石海岸清掃の翌日、町民の皆さんにSDGsに関する理解を深めていただくため、苅田中央公民館で「苅田町SDGsシンポジウム」を開催しました。野口健さんによる特別講演会のほか、パネルディスカッションやアイデアフォーラムを行い、会場には300人を超す方が聴講に訪れました。

遠田町長は開会の挨拶で、これまでの町のSDGs推進のあゆみを振り返り、今後の取り組みや展望について説明。「このシンポジウムをSDGsについて考えるきっかけにして、町や皆さんの取り組みを一緒になって進めていきたい」と話しました。

特別講演会では、野口健さんが「富士山から日本を変える～山から学んだ環境問題～」をテーマに講演。エベレストや富士山で精力的に清掃活動を行う野口さんならではの話題が次々に飛び出しました。

野口さんは「海外の登山家に『富士山は汚い』と言われ、悔しい思いをしたことが富士山清掃を始めたきっかけ。だから最初は、環境問題やSDGsを意識をすることはありませんでした。でも、目の前の問題にコツコツ取り組んでいたら、自分の活動がSDGsの17のゴールのうち16項目に関連していたんです」と自身がSDGsに関わるまでのいきさつを説明。さらに、「環境の『環』の文字は『輪・和』とも読めます。だから、環境問題で大切なことは、人と人とのつながりだと思うんです。行政だけが取り組むのではなく、NPOや企業、一般の人たちが一緒に取り組み、その『環』をどれだけ広げられるかが重要です」と、たくさんの人や団体が関わり合いながら環境問題に取り組むことの大切さを話しました。

講演を聞いた方からは「SDGsのために、小さなことでも継続していくことが大切だということがよく分かりました」などの感想が寄せられました。

▲国内外の山で清掃活動をする野口さん。

## 地球の未来のためできることは？ 有識者がパネルディスカッション

パネルディスカッションでは、町長と野口さんに加え、日産自動車九州㈱の東俊明さん、殿川とホタルを守る会の松岡麻利子さん、苅田町社会福祉協議会の竜口隆三さんの3名がパネリストとして参加し、「苅田町から地球の未来のためにできること」をテーマに討論。自身の経験などを踏まえた様々な提言が飛び交いました。

コーディネーターを務めた北九州市立大学の眞鍋和博教授は、パネリストの意見を取りまとめ、「まずは難しく考えることなく、自分ができることから始めること。そして、仲間づくりをしながら、継続して活動を続けることが大切だということですね」と、ディスカッションを締めくくりました。

▶自身の経験を交えながら未来への提言を行うパネリストの皆さん。

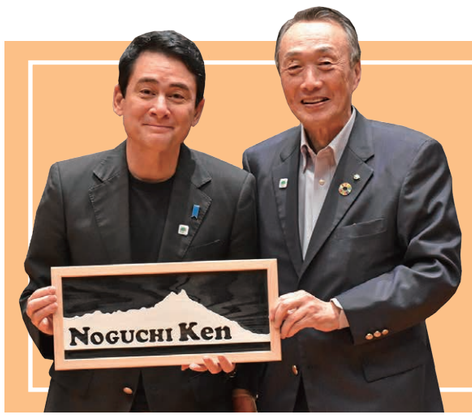
## 持続可能な地球環境を目指し、3チームがアイデアを提言

アイデアフォーラムでは、「苅田町から持続可能な地球環境のためにできること」をテーマに、一般応募された多数のアイデアの中から、審査の結果選ばれた3チームがアイデアを発表し、最優秀賞を決定しました。

最優秀賞は、紙コップ（生分解性プラスチック）を堆肥にして野菜づくりに生かすアイデアを提案した行橋高校のSDGsラボが受賞。優秀賞は、海洋植物を活用してCO2削減を目指す西日本工業大学EWAが、優良賞は、企業や農家と協力して循環型のまちづくりを目指す京都高校SG部が受賞しました。

審査員を務めた町長は「新しい視点で提言を頂いた。アイデアを魅力あるまちづくりの参考にしていきたい」と話しました。

▲アイデアフォーラムに参加した行橋高校SDGsラボ（上）、西日本工業大学EWA（左下）、京都高校SG部（右下）の皆さん。




## 感謝の気持ちを込めて記念品を贈呈

2日間にわたり清掃活動やシンポジウムにご参加いただいた野口さんに、感謝の気持ちを込めて記念のプレートを贈呈しました。このプレートは、障がい者福祉施設・就労継続支援事業を運営するNPO法人「森の学校」が京築ヒノキの端材で製作したものです。プレートには、アルピニストである野口さんにちなんで、ネパールの高峰マナスルが彫りこまれています。野口さんからは「事務所に大切に飾ります」と感謝の言葉を頂きました。